

チャレンジ！！オープンガバナンス 2023 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 (注1)	No. - (事務局用)	自治体提示の地域課題名 共に安心して幸福実感できる多文化共生のまち	自治体名 福井県越前市
チームがつけたアイデア名 (公開) (注2)	親子でつくる緊急マニュアル～子どもたちが日本人と外国人市民の架け橋に～		

(注1) 地域課題名は、COG2023 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち赤字部分は削除して該当する番号を記入のこと

チーム名 (公開)	チームあいだ		
チーム属性 (公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	3	
メンバー数 (公開)	3名		
代表者 (公開)	和田 凧沙		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募内容の公開>

1. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
2. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示-非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
3. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません)
4. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、**非公開**です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アトバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

5. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
6. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認 **確認後 OK なら右に○印を記入➡○**

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて説明の途中に図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題のポイントはこちらです！をごく短く以下に書いてください>

<解決したい課題のポイント>

「多様な母国語を持つ外国人市民」を多く抱える越前市。大雨や土砂災害が増加傾向にある昨今において、外国人市民が防災意識を持つためにはどうすればよいか。市と学校、家族の絆で誰も取り残さない越前市を目指す。

<以上の課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いてください> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が原点です>

<提案するアイデアの内容>

私たち「チームあいだ」は、「外国人市民の防災意識向上」を課題に設定し、2022年度は特に外国人児童の多い小学校等で防災授業（O×クイズや身近な災害の紹介等）を行い、宿題に「親子でつくる緊急マニュアル」というものを親子で作成してもらうことで身近な防災に興味を持ってもらう取組みを行っている。また、2023年度は外国人市民へのヒアリングを通して緊急マニュアルのブラッシュアップを行っており、こうした活動で私たちの他、市や市教育委員会といったステークホルダーと連携して、子どもがいるいないにかかわらず全ての外国人市民が防災意識を持ってもらうきっかけづくりを行っている。

課題となる背景

近年、日本では全国的に記録的豪雨が増加しており、福井県越前市においても近年記録的短時間大雨情報の発表がされている。実際に災害時に不安を感じる外国人市民はとも多い。さらに、居住地域によって避難所は異なり、浸水域や土砂災害危険地域も様々である。市は洪水ハザードマップを発行しているが、外国人市民に話を聞くと、見ていなかったり存在を知らなかったりして、浸透していないのが現状だ。そして、いざ災害となると、「越前市 大雨」等と Web 検索しても過去の記事が出てきてしまい、リアルタイムの情報にアクセスするのは容易でない。市は LINE 公式アカウントや市 HP で情報発信をしているが、外国人市民には利用していない人も多い。

また、防災授業やヒアリングを実施する中で、大人たちからは「実際に災害が起こったらどうするか家族でのルールを考えたことなかった」「ブラジルでは日本のように災害が多く発生しないため、防災について深く考えたことがない。母国では避難所もなく、訓練も覚えがない」と声があるように、家族を守るという視点での話し合いの場の不足や、災害の頻度等に対する認識の違いから防災意識が不足していることも課題にあげられた。

だからこそ、各家庭の避難場所、災害の可能性把握、いざとなった場合の家族との連絡方法やルールを話し合い、予め災害に備えておくことが重要だと考える。

親子でつくる緊急マニュアル

そこで私たちは、外国人市民の子どもたちに着目した「**命を守るために必要な最低限度の情報**」を書くオリジナルの災害対応マニュアルを制作。義務教育である小学校において「親子でつくる緊急マニュアル～子どもたちが日本人と外国人市民の懸け橋に～」をテーマに設定し、子どもたちが架け橋となって外国人コミュニティの防災意識の向上に向け

取組みを始めた。

この「親子でつくる緊急マニュアル」とは、小学校での防災授業を受けた後に、宿題として親子で話し合いながらつくる各家庭オリジナルの災害対応マニュアルである。災害に関する正しい知識を身につけながら、親子で災害対策について話し合うきっかけづくりになるものである。

特に大雨を想定した緊急マニュアル「わが家の大雨マニュアル」（図 1）では、行政の情報が網羅されているハザードマップとは異なり、項目は「連絡先」「避難する所」「わが家のルール」と3つに絞っている。連絡手段が電話以外にも、メッセージアプリの LINE や WhatsApp もあることからアイコンで選択できたり、マイマップへリンクする QR コードを設けたりするなど、外国人市民へのヒアリングを通してブラッシュアップを行う。なお、ヒアリングによると、外国人市民同士の連絡手段には WhatsApp を使用しており、日本人市民との連絡には LINE を使用しているとのことであった。

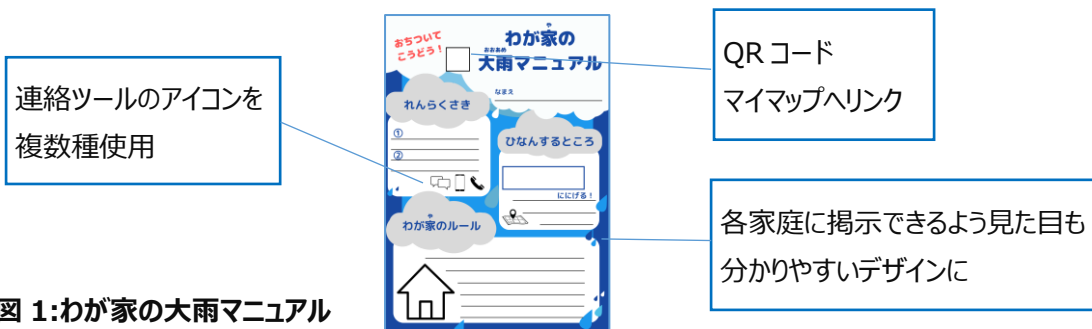


図 1:わが家の大雨マニュアル

実施と展開方法

企画・実施するのは私たち仁愛大学人間学部コミュニケーション学科安彦ゼミ生である「チームあいだ」である。ターゲットは外国人市民や子ども等を含む全ての越前市民。企画の検討、アイデアの実施にあたり越前市役所の防災部門や市民協働部門、デジタル部門などの関係部署へ相談し、防災教室の実施には市教育委員会に協力いただく。

こうした体制で、小学校の社会で防災について学ぶ授業や総合学習、防災啓発デーである9月1日防災の日等に活動を実施。越前市内にある小学校の中でも、特に外国人児童の多い武生西小学校や大虫小学校等で防災授業を行い、宿題では「親子でつくる緊急マニュアル」をつくってもらう。

そして「緊急マニュアル」やその取組みの様子を外国人市民が SNS 等で発信することで、子どもがいるいないにかかわらず全ての外国人市民が防災意識を持ってもらい、こうした活動を継続することで、安心・安全な暮らし、ウェルビーイングなまちづくりへつなげていく（図 2）。



図 2:アイデアの概要

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかの理由を上記のデータを示しつつわかりやすく書いていきます>

①越前市の外国人市民ってどれくらいいるの？

人口比率

越前市総人口の約 6.5%が外国人市民である。これは 2020 年国勢調査における割合 2.18%と比較しても高い。ブラジル人が外国人人口の約 7 割を占めている。

人口ピラミッド

日本人の年代別人口のピークは 70～74 歳で次に多いのは 45～54 歳だが、外国人では、25～34 歳となっている。生産年齢人口における外国人は約 3,800 人で、市全体の生産年齢人口の 8%近くを占める（軸は日本人と外国人とでスケールが異なる）。

出生数に占める外国人比率

越前市人口異動報告によると、外国人市民の出生数 69 人（2022 年）、出生比率 12.4%（同年）と、年々増加している。

→外国人市民の子どもたちに着目した取組みは、誰も取り残さない越前市を目指すために重要。

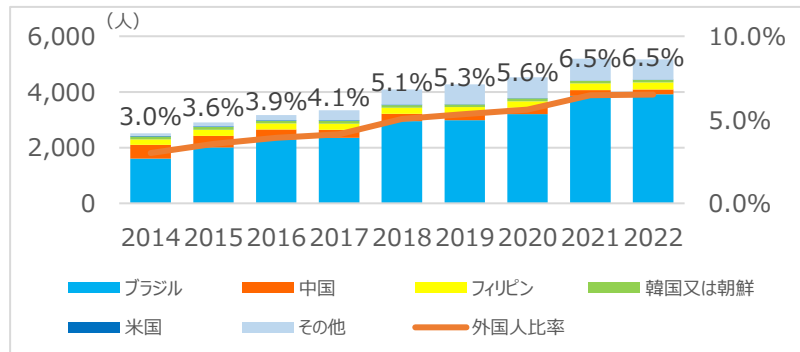


図 3:出典「越前市統計年鑑（第 2 章）」

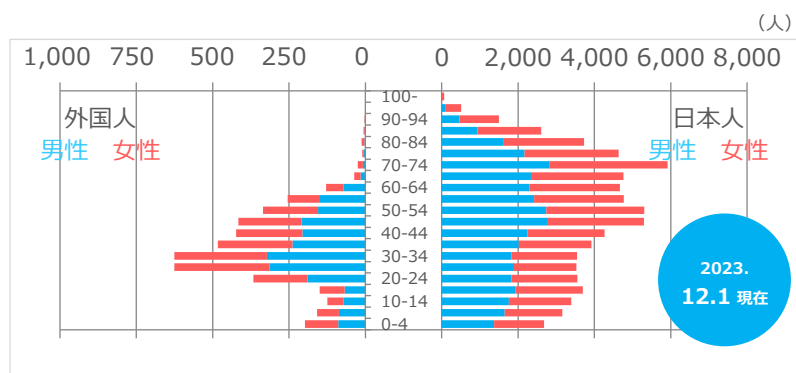


図 4:出典「越前市住民基本台帳」を市企画財政課が加工

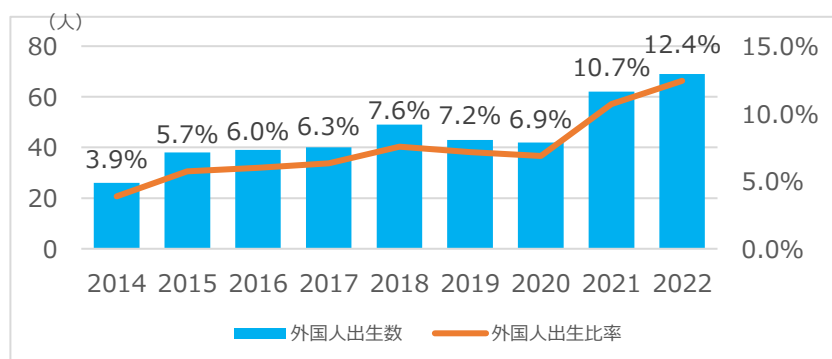


図 5:出典「越前市人口異動報告」

②災害ってどのくらい増えているの？

気象庁によると、「大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化」について、

- ・ 大雨の年間発生回数は有意に増加しており、より強度の強い雨ほど増加率が大きくなっています。
- ・ 1時間降水量 80mm 以上、3時間降水量 150mm 以上、日降水量 300mm 以上など強度の強い雨は、1980年頃と比較して、おおむね 2 倍程度に頻度が増加しています。

と報告がある（図 6）。2004 年 7 月の福井豪雨（図 7）や 2012 年の越前市東部集中豪雨で大きな被害が発生したほか、2022 年には、越前市で 8 月 4・5 日にも市道土砂が流出する大雨が発生した（図 8）。

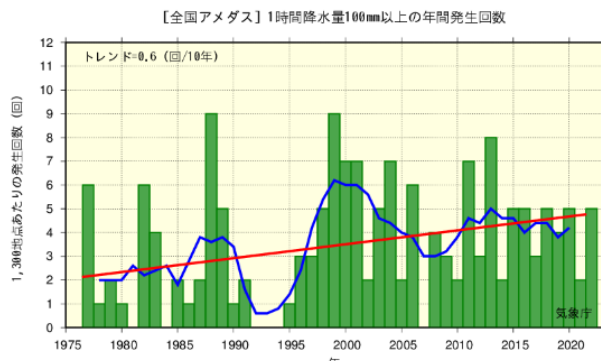


図 6:「大雨や猛暑日など（極端現象）のこれまでの変化」

https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/extreme/extreme_p.html



図 7:福井豪雨



図 8:市道土砂流出

③実際、外国人市民は防災についてどう考えているの？

越前市多文化共生推進プランのアンケート項目「日常生活で困っていることは何ですか」の回答第 2 位が「災害時」になっているが、実際、どのようなことに困っているのか実態調査を実施するとともに、マニュアル制作をその場で行ってもらうその有用性などのヒアリング（図 9）を行った（市内在住の 2 世帯）。以下、主な意見を紹介する。

ヒアリング①家族構成：父、母、子 2 人

- ・ ブラジルでは日本のように災害が多く発生しないため、災害について深く考えたことがなく、知識も少ない。母国では避難所もなく、訓練も覚えがない。何とかなるだろうという気持ちもある。
- ・ 災害時、市が災害関連の情報を出しているが、どのサイトを見ればいいのか知らない。

ヒアリング②家族構成：父、母、子

- ・ 市が発行する洪水ハザードマップは家に見当たらない。
- ・ この 3 つがちょうど良い、必要な情報量。
- ・ 外国人市民は自国民同士のコミュニティをもっていることが多い。

ヒアリングまとめ

- ・ 「実際起こったらどうするか家族でのルールとか考えたことなかった」→災害時の具体的行動の共有と防災意識を持ってもらうきっかけづくりへの有用性
- ・ 「ブラジルでも子どもが書いた絵や学校で作ってきた作品を家で飾るという文化はある。マニュアルを普段から見ていたら覚えられる」→各家庭に掲示してもらえる可能性
- ・ 両家族のお子さんとも（家族の誰かが家にいるため／メッセージアプリ WhatsApp を使うため）両親の電話番号を覚えていなかった。→マニュアルの“れんらくさき”のアイコンを修正



図 9:外国人市民へのヒアリング

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、**アイデア実現までの大まかな流れ**について、**2 ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

＜アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず＞

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

【実現する主体】

実現主体である私たち「チームあいだ」は仁愛大学安彦ゼミの学生が中心に活動しており、同ゼミは過去 5 年間、卒業生の意志を継ぎながら、越前市に住む外国人市民との共生に焦点を当てた活動を継続して行っている。今回のアイデアにおいては、本チームの他、以下のステークホルダーの協力が不可欠である。

- ・ 市役所：防災危機管理課やデジタル政策課等の職員による、ヒアリング調査やデータ提供への協力
- ・ 教育委員会：小学校 4 年生の社会の授業に組み込まれている防災教育の時間を活用する提案
- ・ 小学校：出前授業への協力。家庭で作られたマニュアルは先生が確認

**【予算】**

予算は、2022 年度・2023 年度ともに越前市地域貢献活動支援補助金※を活用する。

【2022 年度 越前市地域貢献活動支援補助金】

印刷費用	34,280
翻訳費用	3,300
雑費(文具、用紙、WS備品)	3,842
計	41,422

【2023 年度 越前市地域貢献活動支援補助金（予定）】

謝礼(翻訳・打ち合わせ等)	30,000
雑費(文房具・消耗品・ソフトウェア等)	45,000
計	75,000

※越前市地域貢献活動支援補助金とは、越前市内で自主的に、地域の課題解決や地域の活性化を図ることを目的に活動を実施している市民活動団体や学生団体の企画事業に対する補助制度。

【実現にいたる時間軸を含むプロセス】

外国人市民の子どもたちに着目した防災意識の向上の取組みは、子どもたちが架け橋となり、その親、そして、自国民同士のコミュニティ内での広がりにつながるよう本アイデアの実現に取り組んでいく。

＜2022 年～ 緊急マニュアル作成＞

緊急マニュアルのデザイン案を複数案用意し、その中から最も良いものを厳選する。

＜2022 年 7 月 会場選定＞

防災教室の会場は、外国人児童が可能な限り多く参加できる場所が望ましい。市教育委員会に相談しながら、外国人児童が多く通う武生西小学校を選定した。児童の 5 人に 1 人以上が外国籍。

＜2022 年 8 月 対象学年決め＞

社会の授業で防災の単元があり、ある程度グループワークに慣れている 4 年生を対象にすることを決定。1 組・2 組（全クラス）計 47 人の児童に、各クラス 1 限（45 分）の授業を行うこととした。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

<2022 年 11 月 22 日 防災教室実施>

各種ステークホルダーの協力の元、武生西小学校 4 年生を対象に防災教室を実施した（図 10）。さらに宿題として親子で話し合って「わが家の大雨マニュアル」を作成してもらった。

児童の感想では、「まだ大丈夫、まだ大丈夫ではなくて早め早めに避難した方がいいとわかりました。家族会議をしてあらかじめ行動を決めておくといいとわかりました。」「家で大雨マニュアルを作るけど、もっと他にも色々なことを話し合って決めようと思いません」等、出前授業を機に防災意識を高めることができたという感想や、動画を見て楽しくわかりやすく学ぶことができたという感想を多くもらうことができた。

また、まとめ版のマニュアルは全校児童に配布した。授業では、国土交通省の〇×クイズ動画も使用した。

(<https://www.youtube.com/watch?v=KeJp6c9SpMo>)

<2023 年～ 実施内容の検証>

前回、小学校を通じて各家庭での言語でマニュアルを作ってもらっていた。このマニュアル制作の意義を検証するための打合せを市役所の協力のもと、開始した（図 11）。

<2023 年 8～9 月 日程調整>

市防災危機管理課から紹介を受けた外国人市民防災リーダー及び一般の外国人家庭を対象にヒアリングのための日程調整を行う。

<2023 年 10 月 ヒアリング実施>

外国人市民の生の声を聞き、実態調査を実施するとともに、マニュアル制作（図 12）をその場で行ってもらい有用性などのヒアリングを行った（2.（2）③を参照）。

<2023 年 11 月～ マニュアルのブラッシュアップ>

ヒアリングでの意見や課題を踏まえて、「わが家の大雨マニュアル」のブラッシュアップを実施。連絡手段のアイコン化や避難場所の QR コード化、マニュアルの作り方ガイドの作成などを行う。

<2024 年～ 今後の取組み>

まずは一番身近な災害である大雨・土砂災害を対象に実施した。今後は大雪や地震など他の災害にも対応していく。外国人市民・外国籍児童と言っても「日本語が話せる子（日本語しか話せない子）」「日本語もポルトガル語（または他の言語）も話せる子」「ポルトガル語（またはその他の外国語）しか話せない子」など様々な子どもが暮らしている。日本語の習熟度に合わせ、小学 4 年生に大雨、5 年生に大雪、6 年生に地震の緊急マニュアルを制作してもらうことを視野に入れ、本アイデアのさらなる実現に取り組んでいく。

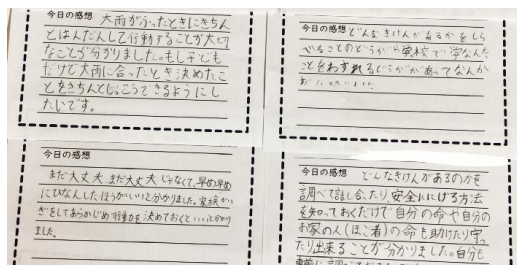


図 10:武生西小学校での防災教室



図 11:実施内容検証の打合せ

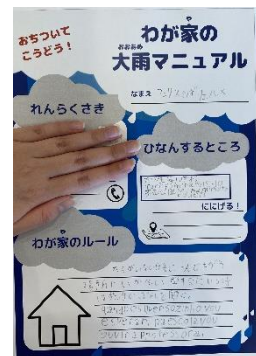


図 12:マニュアルの制作

子どもたちが日本人と外国人市民の架け橋となり、
どんな言語の人にも愛される安心安全なまちを皆でつくる！